

# 多様な視点で災害を考える

Vol. **2**

～すべての男女が自分らしく生きることのできるまちをめざして～

平成30年3月発行

男女共同参画は、全ての人に、そして、仕事、家庭、地域生活などのあらゆる場面に関わっています。吉川市男女共同参画啓発紙では、すべての男女が自分らしく生きることのできるまちをめざし、様々なテーマを取り上げて情報発信していきます。今回のテーマは「多様な視点で災害を考える」です。



第2回吉川市減災プロジェクト in 吉川小学校区  
(平成29年11月5日、吉川小学校)

## 特集 | 浅野富美枝氏×市長対談「災害対策と多様な視点」

過去の災害から、避難所運営などの災害対応に男性のみが中心になっていると、多様な避難者に対応しきれないことが分かってきました。今、災害対策には、「女性の視点」、「多様な視点」が求められています。

市では、男女共同参画の平成29年度テーマを「多様な視点で災害を考える」とし、昨年10月に講演会を開催(講演会内容は3ページに掲載)。中原恵人市長が、講演会の講師を務めた「男女共同参画」と「災害対策・被災者支援」に関する有識者、浅野富美枝さんに、「災害対策と多様な視点」についてお話をお伺いしました。

### 大切な男女共同参画の視点

**市長：**浅野先生は東日本大震災の際、宮城県にお住まいで自ら被害を受けながらも、もっと被害の大きい被災地で支援活動をされたとお伺いしました。

実際の現場を経験され、どんなことを感じましたか。

**浅野：**東日本大震災も含め、災害で女性が直面した困難には次のようなことがあります。

#### ★プライバシーのない避難所

間仕切りがあるのに使用されない、トイレや洗濯

物干し場に男女別がない、更衣室がない

#### ★固定的性別役割分業の顕在化

男性は有償の瓦礫処理・女性は無償の食事の準備、保育・介護などの家族ケアの負担が女性に集中

#### ★DV、性被害、虐待の悪化

私が直接感じたところでは、避難者の皆さんは我慢強く、特に女性は「非常時なのだから我慢しなければ」と思っているようでした。

そこで、私の所属するNPO団体では、「一人ひとり

あさの ふみえ  
**浅野 富美枝** 氏

～プロフィール～

吉川市在住。

埼玉大学教養学部卒業、法政大学大学院社会科学部研究科博士課程修了。

2000年宮城学院女子大学に赴任。同大学教授を経て、2016年4月から特任教授、2017年3月退職。専門は、家族社会学、ジェンダー論。

日本自治体危機管理学会会員。NPO法人イコールネット仙台理事。



に見合った支援物資の提供」や「洗濯代行ボランティア」等を行いました。その後、「授乳スペース等避難所空間の改善」や「DV、性被害等に関する相談所の設置」等、女性の視点による取組みが広がってきました。

大変な状況下でも大切にされることで人は生きていてよかったと思うものです。だからこそ一人ひとりを大切にする災害時の女性のニーズは、生きる力をとりもどす源泉となるのだと思います。

### 多様性を認め合い、一歩ずつ、前へ

**市長:** 私は、災害対策について多くの現場に赴き、また、首長や有識者などさまざまな方と意見交換してきましたが、その中で皆さんが同じようにおっしゃっていたことは、「一人ひとり市民の命を行政の力だけで守りきることはできない」ということでした。

そこで、吉川市では、災害被害を減らす「減災」という視点を柱に据え、平成29年度を「減災元年」とし、さまざまな取組みを行い、「自助」や「共助」

の重要性も呼び掛けているところです。

浅野先生には、今回、災害を考える時に重要となる「多様な視点」について、講義をお願いしました。

**浅野:** 災害における「多様な視点」とは、乳幼児・子ども・青少年・高齢者などの年齢別、障がいや疾患の種類別、妊産婦、外国人、性的マイノリティなど、人々の多様な状況に立ち、それぞれが抱える困難の違いに注目する視点です。多様な視点による配慮は、一人ひとりが災害から受ける被害を減らし、ひいては、地域が災害から回復する力を高めることにつながります。そして、このような「多様性」への配慮は、男女共同参画と同様に、災害対策だけでなく生活のあらゆる場面で必要ですよ。

**市長:** 吉川市が目指しているのが、まさにその「多様性」に配慮したまちづくりです。そのためには、行政だけでなく、市民の皆さんや団体・企業の方々と共に取り組むという共働と、目の前の課題を一つひとつ解決していくという継続性が重要です。オール吉川で、一歩ずつ前へ進んでいきたいですね。

## ～吉川市男女共同参画地域リーダーと考える～ 災害に備え「私ができること」



講演会「災害につよい吉川をつくる」(右ページ)に参加した「吉川市男女共同参画地域リーダー」たちが集まり、それぞれの感想や意見を交換しました。

### 身近な仲間で～地区防災計画

#### 小松崎暁子さん

浅野先生の講義を聞いて目から鱗だったのが、『地区防災計画』は身近な仲間で作れるということでした。『地区防災計画』については、「行政や自治会が作るもの」という固定観念を抱いている人って、多いと思います。

多様な視点で考えると、地域や個人それぞれ事情が異なるし、それぞれに見合った範囲の中で、ベストな『地区防災計画』を策定することは、とても有意義なことですよ。

私なりにどんなことができるか、考えていきたいと思っています。



多様な視点で災害を考える講演会

## 災害につよい吉川をつくる —東日本大震災の体験を踏まえて—

「災害につよい」地域をつくるためには、女性や多様な人々の参画が大切です。具体的にどのような取り組みをすればよいのでしょうか。東日本大震災で被災者支援にあたった浅野 富美枝 氏(左ページにプロフィール掲載)を講師に、平成29年10月15日に開催した講演会「災害に強い吉川をつくる」の内容を抜粋してお知らせします。

### 災害につよい地域とは…「レジリエンス」

災害に対する「つよさ」は、英語で言うと「レジリエンス(resilience)」の力、「ストレスや逆境に直面したときに、速やかに対応し、克服する力」です。

具体的には、①自然災害を可能な限り軽減する力、②自然災害に伴って発生する人災を防止する力、③自然災害から速やかに立ち直る力、となります。

### 実効性ある減災の取り組みの例

東日本大震災では、既存のマニュアルに縛られず、より大きな被害を想定した避難訓練を直前まで実施していたために、難を逃れた例があります。

災害対策には、日頃からの準備や、マニュアルが不可欠です。そして、マニュアルは必要に応じて見直し、多様な状況を想定した実地訓練を積み重ねていくことが重要です。



### 女性・若者などのリーダーシップの重要性

女性は、乳幼児や障がい者、要介護高齢者など、ケアを必要とする生活弱者の身近にいる場合が多く、そうした人たちのニーズを代弁できる立場にあります。女性のニーズは、安全・安心・健康を確保するニーズであり、女性のリーダーシップは、災害を生き抜く力につながります。

また、若者は、現在の減災力を担っているばかりでなく、若者のリーダーとしての体験は次世代の減災力につながり、「震災風化」を防ぎます。

### 平常時の地域コミュニティが「共助」の力に

地域でもともと活動している市民グループなどのコミュニティは、災害時に、それぞれの普段の活動の延長上で、多様な人々を地域で支える「共助」の力となります。

災害時に多様できめ細やかな対応ができる「共助」の力を発揮するためには、平常時から、多様な当事者が参画する地域コミュニティを構築していくことがとても重要です。



### 多様な視点で考え～吉川市から被災地支援

#### 伊藤映子さん

東日本大震災の時、被災地の様子をテレビで見て「何かしたい」と思いました。でも、年齢も年齢だし、現地へボランティアに行くことは難しい、他の方法で何ができるか、女性目線で考えたんです。

「避難所生活の中で、お風呂に行く時、下着やタオルが丸出しでは恥ずかしいだろうな」と思い、仲間とバッグを作成して送りました。とても喜んでもらえて嬉しかったです。

また、私は、子育て支援活動をしています。ミルクのこと、アレルギー対応のこと…などと、普段、支援をしているからこそ気付けることがあります。こうした気付きを、意見として声に出すことも必要だと感じました。

多様な視点で考え行動することって大切です。

「吉川市男女共同参画地域リーダー」に登録された方には、男女共同参画につながる情報を地域に広めたり、男女共同参画に関する市の事業などにご協力いただいたりしています。制度にご賛同いただける市内在住・在勤・在学の方は、ぜひご登録ください。

### 女性のつながりでサポートしたい

#### 中村苑子さん

いったん災害が起こった時、力を発揮するのは、市民力(共助)だと思います。吉川では、自治会を始め、NPOや地域サロン、さまざまな地域活動が活発です。特に女性の細やかな視点で知恵を出し合い、横のつながりで災害を乗り越えられないでしょうか。

人は大変な困難に遭遇した時、何によって救われるのでしょうか。私は、人の心の優しさに触れた時、生きる力を取り戻すのでは、と思います。

その時が来たら、吉川の女性たちとスクラムを組んで、心の通い合うサポートができれば、と深く思います。

## 特集：地域の仲間との「つながり」で災害を乗り越える

### 災害時対応は「普段からのつながり」があるからこそ

#### 木売新田自治会 菊地 純松 会長



「災害時は自治会長として先頭に立たなければ」という思いから、減災に関する講座等は積極的に参加しているけど、住民一人ひとりの協力がなければ何の対応もできないんだよね。いざという時に協力し合えるかどうかは、「普段からのつながり」に懸かっていると思っていて、そうしたつながりを育むために、自治会活動にはさまざまな世代のたくさんの人に関わってもらおうようにしてるんだ。

例えば、若い人にも役員になってもらい、子供達も楽しめる行事を心掛けてる。だから、全国的に自治会の高齢化が課題になっているようだけど、うちの自治会行事の参加者の半数近くは、子供達とお母さん達。

ありがたいことに、もともと木売新田自治会はチームワークが良いところで、更にこうした積み重ねもあってか、老若男女を問わずたくさんの方が自治会に協力してくれる。

皆と一緒に、多様な視点で災害を考えていきたいね。

### 被災経験から思うこと ～地域のつながりを大切に～

#### 金田 桂子 さん

東日本大震災の際、福島県で被災し、1歳と4歳の子を抱えながら、数日間、避難所生活を経験しました。開設間もない避難所は食物も物資も不足し大変な状況でしたが、それを乗り越えられたのは、同じ集合住宅から一緒に避難した仲間がいたからです。当時住んでいた集合住宅では近所付き合いがとても活発で、避難所でもその仲間同士、子どもの面倒をみる係、買い物係と手分けをしたり、また、不安な夜には励まし合ったりしていました。

その後、夫の実家のある吉川市に転居しましたが、私にとっては、知り合いもなく右も左も分からない土地で生活するストレスは、予想以上に大きかったです。それでも、制服や備品をかき集めて入園の準備をしてくれた幼稚園や、「大変だったね」と言って親切にしてくれる吉川市の皆さんに支えられ、私が家族を照らす明るい太陽になろうと思えるようになりました。

被災して思うことは、「女性も男性も、普段からの地域でのつながりがいかに大切か」ということです。

これまで支えてくれた皆さんに恩返しする気持ちで、これからも積極的に地域活動をしていきます！



#### コラム 性のあり方も「多様性」

戸籍などの性は、男性・女性のどちらかに分けられていますが、「性自認・性的指向・性表現」について考えるとき、男性・女性の間にはっきりとした境界はなく、「どちらかと言えば男性／女性寄り」、「どちらでもない」、「異性に興味が向かない」など、その答えは一人ひとり異なります。

LGBTやLGBTQといった言葉で表現される性的マイノリティの当事者は、人口の5～8%と言われていますが、そもそも性のあり方は百人百様であり、いわゆる「正解」はないのです。

性の多様性を受け止め、お互いを尊重し合う、気持ちのよい人間関係を心がけましょう。

#### みなさんは、どうでしょうか？

それぞれについて、答えは一人ひとり異なります。

##### ◆ 性自認…自らの性をどのように思うか

男性 ←→ 女性

##### ◆ 性的指向…どのような性に関心が向くか

男性 ←→ 女性

##### ◆ 性表現…服装やしぐさなどにおいて性をどのように表したいか

男性 ←→ 女性

誤り

男性 女性

性に、はっきりとした境界はありません。



発行 吉川市 | 平成30年3月発行

お問合せ 吉川市 市民参加推進課 男女共同参画・文化交流担当

〒342-8501 吉川市吉川 2-1-1 電話:048-982-9685 FAX:048-981-5392

メール:shiminsanka2@city.yoshikawa.saitama.jp